

第16回福岡・マレーシア イポー青少年交流訪問団 ホストファミリー募集

福岡市の姉妹都市であるマレーシア・イポー市から、青少年交流訪問団が来福します。

マレーシアは、マレー系・中国系・インド系などの人々で成り立つ多民族国家です。この訪問団もイスラム教・ヒンズー教・仏教などの高校生や引率者によって構成されます。訪問団のメンバーは、ホームステイを通して、ホストファミリーの皆様と新たな発見や感動を分かち合いながら、生活環境、習慣、言葉の違いを乗り越え、日本の文化を学びます。国際交流に関心を持つご家庭の皆様、お申込みをお待ちしています。

訪問団員： マレーシア・イポー市の青少年（高校生）：8名
引率者（大人）：2名 計10名

ホームステイ期間： 平成23年12月7日（水）～12月14日（水） 7泊8日

主催： 福岡市姉妹都市委員会、財団法人福岡国際交流協会、福岡市、
福岡舞鶴ライオンズクラブ

団員スケジュール：

- ①原則として、平日の昼間は当協会の引率で、市内施設見学や学校訪問（体験入学）などに参加
- ②土・日はホストファミリーとの自由行動
- ③地域住民との交流会、さよならパーティーなどのイベント参加

ホストファミリーの方をお願いしたいこと：

- ①平日の集合場所（福岡市役所北別館）への送迎（朝9：00、夕17：00頃）
 - ②ご家庭での食事（原則として平日の朝と夜、週末は3食）をご提供ください。
 - ③最終日（帰国時）の福岡空港送り
- *平日の集合場所への送迎にかかる交通費は主催者にて負担いたします。
*イスラム教徒の団員の場合、宗教上の制約などがあります（豚肉を食べない・犬は敬遠される、お祈りの時間がある等）。受入家庭を対象に事前説明会を開催し、詳しい資料も差し上げますので、ご協力をお願いします。

申込方法：

受入を希望される方は、お手数ですがEメール又は電話で下記までご連絡ください。折り返し申込票をお送りいたします。平成23年10月7日（金）までに必要事項をご記入の上、お申し込みください。結果は、10月末までにご連絡しますが、お申込多数の場合はご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。



<お問合せ・お申込み先> 福岡国際交流協会（担当：久保、梅林）
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 市役所北別館5階
TEL：092-733-5630 FAX：092-733-5635 Email：ipoh@rainbowfia.or.jp

第16回福岡・マレーシア イポー青少年交流訪問団受入



今年の受入れ日程・行事予定

平成23年12月7日(水)～12月14日(水)

月日	時間	内容(予定)
12/7(水)	午前 17:00	福岡空港到着～オリエンテーション、市内施設見学 ホストファミリーとの対面
12/8(木)	9:00 17:00	市役所北別館集合～内浜公民館・内浜小学校交流会 解散市役所北別館
12/9(金)	9:00 17:00	集合～市内施設見学 解散
12/10(土) 12/11(日)	終日	ホストファミリーと自由行動
12/12(月)	9:00 17:00	市役所北別館集合～市内施設見学 解散
12/13(火)	9:00 18:00	市役所北別館集合～学校訪問(体験入学) さよならパーティー
12/14(水)	午前	福岡空港へ集合 福岡発

前回の団員・ホストファミリーの声

団員は何事にも積極的で、日本の文化・習慣を知ろう、身につけようと努力する姿に、感銘と影響を受けた。

福岡に来て、様々なことを実際に体験することで、日本・福岡の歴史や生活習慣などをより深く知ることができた。

生習慣の違い、特にイスラムと直に触れ合うことができ、先入観として持っていたイメージが払拭された。

全てのプログラムが素晴らしかったが、特にホストファミリーと過ごした時間が最高だった。また、福岡で出会った人たちは、みな親切だった



<イポー市および福岡市との関係について>

マレーシア北部、ペラ州の州都であるイポー市は、クアラルンプールから北180kmの交通の要所に位置するマレーシア有数の都市で、かつて国内最大のすず鉱山地帯の中心として栄え、現在もペラ州の商業・金融・工業・文化の中心地であるとともに、有名なリゾート地「キャメロン・ハイランド」への玄関口となっています。

1989年の福岡市との姉妹都市締結は、日本とマレーシアの都市間で行われた最初のものですが、両市の交流の歴史はそれよりも古く、1977年からの「青年友好の翼」のマレーシア派遣や1979年からはマレーシアからの青年受入れを行い、これが姉妹都市締結の要因の一つになりました。その後、

1998年に始まったのがこの青少年交流事業で、昨年までに延べ121人の高校生などが両市を相互訪問して見聞を広め、交流と理解を深めてきました。

- ・多民族国家のマレーシアには、マレー系・中国系・インド系と様々なルーツを持つ人たちが共に暮らしています。公用語はマレー語ですが、広く英語が使用されており、今回の団員たちも英語を話します。
- ・欧米からのホームステイ受け入れとは、ひと味違う異文化体験ができます。

*** 是非、この歴史ある交流事業にご参加・ご協力ください ***